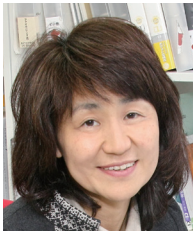


自分の道を探そう!



永合由美子

東京大学大学院工学系研究科広報室
[113-8656]東京都文京区本郷7-3-1
学術支援専門職員、
専門は化学工学、界面化学。
nagoh@pr.t.u-tokyo.ac.jp

仕事は人に仕えること。私事は自分で楽しむこと。と定義する。誰かに喜んでもらえたらそれが一番の幸せ! と感じる私には、二つはほぼ重なる。楽しみながらチャレンジし続けてきたつもりだ。

小学校からの私立女子校育ち。でも、女子校からはみ出してしまった気がする。国立理系への受験は無理、と高2担任の数学の先生に言われて、あまのじゃくの私は奮起した。大学での研究テーマも、当初与えられたものではなく、教授に直訴して「水俣湾の水銀の動態」をテーマに設定した。当時の水俣病研究センターと共同研究で、先生の素敵な7人家族に囲まれて、九州でも1カ月以上を過ごした。

男女雇用機会均等法の1期生。日用品を開発するメーカーに就職して3年目に結婚&出産。4年目に二人目を出産。産休8週間後には復帰し、育児休業・短時間制度の導入にも組合の委員としてかかわった。同時期に子育てしていたワーママ仲間と、会社から最寄駅まで走って帰った日々も懐かしい。

当時のテーマは10時間程度かかるエステル化反応。効率的な仕事を心がけていたつもりだったが、反応には2日がかかり。仕事はルーチンワークの枠を出ない。隣でテーマを任された同期の男性とは大きな差も正直感じ、「いつになったらまともに働ける?」と上司からは面談で問われた。研究部門の人事担当にここでも直訴。部署を異動させてもらったのは、入社6年目のことだった。

異動後に任された探索研究にオリジナルな視点でチャレンジ、共著論文5報にも貢献した。チームで取組む商品開発テーマには、新しい評価法を導入し、粘り強いアプローチでデータを重ねた。手掛けた商品はヒット商品と認められ、社内表彰も受ける。適材適所、テーマや場が人を育てるのだと身をもって実感、管理職となり、部下とのチームワークも学んだ。

会社の方針で新設された「ヒトを研究する部署」へ、研究所生活18年後に異動。インタビュー調査なども自ら手掛け、ニーズ探索研究を経て、商品企画・事業化を推進する部署に移る。

ヒトの研究をするうち、私自身の働きかけたい対象も、次第にモノからヒトへと変化したように思う。研究所から事業部まで、幅広い経験を現場で積むことができ、企業での生活に一区切りをつけた。60歳までに、もう一度新たな挑戦をしたい、もっと広く社会のために貢献したいと願って退社。48歳だった。

キャリアカウンセラーの資格を取得しつつ、現在の大学職員の仕事を得た。工学の魅力を伝える広報の仕事は、最先端の研究にも触れる現場。次世代育成を目指すアウトリーチ活動「東大テクノサイエンスカフェ」も、先生方のご協力とたくさんのリピーターに支えられ、15回目を企画中。延べ1,200人の小中高生と保護者に参加いただいた。

2人の子供は社会人となり、子育ては一段落。介護のかたわら、本業以外のサードプレイス活動にも参画。仕事でもあり、私事でもある、次世代に向けた環境作りは、ライフワークだ。

設立後20年を経過した日本女性技術者フォーラム(JWTF)では、昨年メンター部会を立ち上げ、メンタリング活動を展開。年上に学ぶだけでなく、素敵な若手から年長者が学ぶことも多く、学び合いの場となっている。今年のテーマの一つがセルフブランディングだ。リケジョの追い風をブームで終わらせないためにも、自分自身のカベを打破し、強みを磨き、女性技術者自身が成長することが重要だと考えている。

Let's challenge and find a way! みなさんも、一人一人が夢中になれる道を探してほしい。



第11回東大テクノサイエンスカフェ「工学道場」